



○あべ ひでお

昭和30年4月26日生まれ。矢本町議会議員・議長を経て、平成17年、合併により誕生した東松島市の初代市長に就任。現在、2期目を務める。

東日本しんとみ支援隊、東松島市役所を訪問

10月26日（金）、支援隊のメンバーが、東松島市役所を訪問し、安部秀保 市長から、現在の状況や震災時の対応、体験、災害への備えなど貴重なお話を聞かせていただきました。



西都児湯バスケットボール協会から預かった義援金を訪問時に手渡しました。

現在の復興状況

東松島市では、約3200世帯（貸家含む）が家を失い、民間のアパートや仮設住宅に避難しています。震災発生から595日目となった昨日10月25日、ようやく、避難している方々が高台へ集団移転するための、宅地造成工事をスタートすることができ、その着工を執り行いました。

集団移転に関しては、東松島市の場合、比較的スピーディーに進めることができました。震災後に市民の皆さんとの話し合いを重ね、市民同士の相互理解も深まったこともあって、移転用地の交渉などをスムーズにまとめることが

できました。

ただ、移転先の高台はどうしても山間地が多く、造成に時間がかかる関係上、宅地をつくりあげるまで、やはり3年くらいの時間がかかってしまいます。

がれき処理も大きな課題です。平成15年の大地震で処理した経験があり、地元の建設業界の方々ががんばっていただいているので、処理は進んでいます。とにかく量が多いため、こちらも時間がかかっている状況です。

災害当時の体験

震災が発生した日は、議会の最終日で、議長報告の最中に被災しました。庁舎は、年月が経って

るものの耐震化をしていたので無事でしたが、それでもかなり揺れました。

家屋が相当数、倒壊したんじゃないかと思いい外を見るのが、正直怖かったです。平成15年の大地震以降、住宅の耐震化が進んでいたお陰で、幸い倒壊や火災の発生はありませんでした。地震に関しては、うまく凌げたんですね。

日頃から、防災訓練を重ねていたこともあり、本部の立ち上げや情報収集などは、スムーズに行えました。あの大津波については、ここまで大きいのが来るとは思っていないませんでした。庁舎が海拔0メートル地帯にあるため、たちまち浸水して、10日以上、閉じ込められました。

復興に向けて

現在、海辺の堤防のかさ上げのほか、道路高盛土化など、複数の対策を組み合わせた多重防御による防災減災を推進しています。

新富町の皆さんをはじめ、世界中から応援をいただきました。ご恩返しの意味でも、しっかりと復興をがんばり、そのモデルケースを伝えていきたいです。私たちの経験や備えを今後に生かしていただきたい。

